

まえがき

彦根市教育委員会

教育長

西嶋 良年

彦根市および彦根市教育委員会では、子どもたちが文化芸術活動を通して自己表現できる機会を提供するとともに、子どもたちに文化芸術を体験し興味をもってもらい、豊かな心と感性を育て、将来の文化芸術活動の後継者を育てることを目的とする『ひこね子ども文化芸術奨励事業』を、平成二十二年度から実施しております。

今年度も日本語の持つ言葉本来の美しさを感じることで、子どもたちの豊かな表現力（考える力・書く力・伝える力）を育むことを目的とした「ひこね子ども文芸作品」を実施し、俳句、川柳、短歌、詩の作品募集をし、延べ四、八〇二人の子どもたちから、七、七七八点もの作品が寄せられ、回を重ねるごとに各ご家庭や学校でも熱心に取り組んでいただきこの事業が根付いてきたことを大変うれしく思います。

昨年度の「子ども文芸作品」入賞者表彰式を、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため止む無く中止とさせていただき早一年近く月日が経ちました。あの頃からみなさんの暮らしも一変しました。今までできていたことが、できなくなってしまう。今まででしなくてよかったのに、しなければならなくなりました。「変化」は不便であり、窮屈ですが、物の見方や考え方を変えるきっかけともなります。このコロナ禍の中で感じたことや考えたことを表現した作品も多く見受けられ、不便だけれど、それがきっかけでこんな良い面に気がついたという「希望」のエッセンスが含まれた作品が多くあり、みなさんの逞しさを強く感じました。

感染症が沈静化するまでにもう少し時間はかかるでしょう。しかし、私たちは日常生活を少しずつ「変化」させることで、この状況に打ち勝つ手だてを見出す力があります。そして打ち勝つと信じています。最後にになりましたが、彦根文芸協会の皆様には作品の審査をはじめ、「夏休み文芸ワークショップ」のテキスト編さんにご協力いただきなど、彦根市における新たな文芸活動の人材育成のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

これからも、明日の彦根を担う子どもたちの健やかな成長を、温かな目で見守っていただきますよう、関係各位の皆様をお願い申し上げます。発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

令和三年 三月